

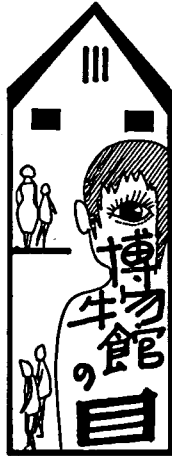
No. 50

1980.

8. 15

岐阜の博物館

▽501-32 関市小屋名
(百年公園内)
編集兼発行 岐阜県博物館内
岐阜県博物館協会
TEL(05752) 8-3111(代)
振替 名古屋 37909



高山陣屋の古文書などみつける

江戸時代だけでも788点

以前の

博物館を支えるもの

—瑞浪市化石博物館を例に—

炭焼きから養蚕まで

資料館 一挙二千点を申請へ

「もの」と「人」が
市民のイメー

文化

夏休み、キミも何かを発見

県博物館 22日から特別展「化石

博物館情報が少なすぎる!!

岐阜県下にある各種博物館施設は、実に100近くにも達しているのに、毎日の新聞紙上やテレビ・ラジオで報じられる博物館情報は余りにも少なすぎるのが現状である。人々は、いろいろな情報を知りたいのだから、これら報道機関を、もっともっと有効に活用させてもらい、博物館と市民を結びつける場としたいものである。どの施設等にも、何か少しは動きがあるはずである。新資料追加、参観者の動向、催し物計画、変更、出版物等々、もし動きがなければ、積極的に動きを作っても、世の人々に博物館の動向を知らせる必要がある。

一週間に一度は、何らかの形で報道機関にとりあげられる。それであってこそ、博物館施設も人々の心の中に定着し、関心が持ってもらえるし、足を向けてもらえるのだと構える必要がある。そのためには、どんなささやかな情報でも、館側から積極的に報道機関へ流すべきである。これ位のこと、わざわざ報道機関へ知らせ

る程でもなかりうと、謙虚に遠慮しては駄目である。書きようによって、記事は興味関心の度合を調節できるのである。博物館の動向の全てを、何らかの形で報道機関を通して世の人々にお伝えし、関心を持っていただくことは、大切なサービスのひとつである。

あなたの施設は、報道機関へすぐ連絡がとれるように常時準備してありますか。毎月毎月、どれくらい情報を流していますか。各社の記者が、週に一回ぐらいいは情報収集に訪ねて来ますか。毎月4～5回は、報道機関に登場しますか。これらの実績・実状をふりかえることが、館経営の自己評価になるのである。

もっともっと積極的に、館側自身が、内容の大小にかかわらず、各種情報を記者さんに提供して、博物館情報が報道機関に登場し続けるよう、各館園は努力すべきではなかるうか。

(Z. M)

岐阜市少年科学センター

▽ 500 岐阜市本荘 3456-41

TEL 0582-72-6784

昭和30年以来、岐阜公園内で「岐阜市児童科学館」として親しまれてきたものを、国際児童年と市制90周年を記念して、理工系だけでなく自然史系の内容を加えて発展させたものです。

正面玄関ホールに入ると、センターのシンボルでもあるリカちゃん、ケンちゃんロボットが迎えてくれます。リモコンで動かせるケンちゃんは、ジャンケンをしてくれます。腹にブラウン管をもったリカちゃんは、館内案内や時刻を知らせてくれたり、記念スタンプを押してくれます。

展示室1は、郷土の自然がテーマで、長良川の淡水魚、ハリヨ、ギフチョウの生体展示、三面マルチスライドによる「岐阜の四季」、それにスクリーンを使った「おさらいクイズ」と、実物や映像で岐阜市の自然が解説されています。展示室2と3は、科学技術Ⅰ・Ⅱで、電気、通信、光、音など、日常生活に身近な現象や科学技術、交通やエネルギー問題が取りあげられ、いずれも手にふれ、操作できるように工夫されています。テレビ電話では、お互いの顔がカラ

(第1展示室、郷土の自然の入口)



(正面入口前)

ーの画面でみられます。音楽に合わせて、レーザー光線が美しく変化に富んだ軌跡を描いていきます。自分もドライバーになったつもりで、自動車運転の仕組みが学べます。ここで独自に開発されたリニア・モーター・カー、コンピューター・カー、モノレール等の未来の交通システム模型を運転することができます。とにかく、自分が操作し自分の目・耳で確かめることができることは、人間にとってたまらない魅力であるし、楽しみながら学ぶことの本筋といえます。参加できる展示室だけでなく、実験学習室、工作教室、学習室、研究室等の施設もすばらしく、これ等を使つての教育事業、多目的ホールでの特別展等の催し物など、少年科学センターとはいえ、万人が楽しみながら学べる新しい博物館としての活動が期待されます。

- 休館日 毎週月曜日(休日の場合は 火・水)
祝日の翌日(日曜の場合は 火)
12月29日～1月3日
- 観覧料 小中生 50円(30円) 大人 100円
()は20人以上団体 (80円)

(第2展示室 科学技術Ⅰ)



藤井美術民芸館

▽ 506 高山市上三之町 69

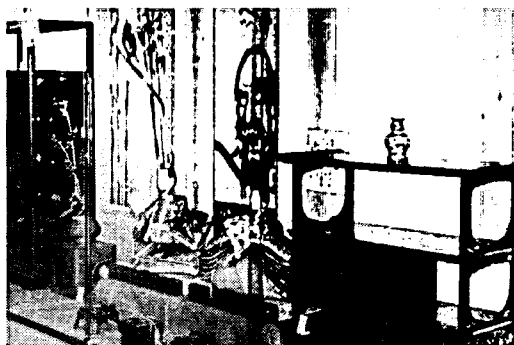
TEL 0577-32-0108

かけがえのない文化遺産である美術工芸品に限りない愛着を抱いて、大切に保存し後世に伝えようと、すでに大正末期から数々の資料を蒐集してこられた藤井胤一氏が、いたずらに私蔵するだけでなく、広く一般に観賞してもらおうと建設されたものです。小京都といわれる高山市、街全体がそれだけでも立派な野外博物館ともいわれる土地柄を反映して、この美術民芸館は、「江戸萬流土蔵」という昔の建築様式がそのまゝに再現されていることも注目されます。

入口に立つと、まず珍しい鐘楼が目に入ります。高山城二之丸の門を再現した鐘楼です。一階の展示品は、古陶器・古漆器・古絵画が中心、二階に調度品・古鏡・古櫛・古衣装・古人形・古刀・仏像・武具、三階に江戸時代の庶民の生活資料・民芸品などがあり、蒐集品は多様多様なものにわたっています。

雛人形としては最も古いもので、高山市の旧家に代々つたわった享保雛といわれるもの、あるいは「しだれ桜蒔絵厨子棚」といわれる華麗優美な調度品……これらの展示品の数々を、どれも過去のものとして、文化遺産として観賞するだけでいいものでしょうか。たしかに、展示品そのものは、現代の日常生活には直結しな

▼ (享保雛や蒔絵厨子棚などがみられます)



い遺物・遺産
といていい
でしょう。し
かし、これら
の展示品ひと
つひとつの背
後には、先人
の生活があっ
たはずですし、
昔の人々の精
神活動・心の
豊かさがあっ
たはずです。



現代人として、 ▲ (正面入口の復元鐘楼)

未来を生きるために、私たちはそこから何か学ぶことはないだろうか、何かを読み取ることはできないだろうか。……そうした視点を忘れて、“きれいだなぁーク”、“こりゃ高価な美術工芸品だなぁーク”と感心して観賞するだけなら、美術民芸館でも博物館でもありえませんが、骨董品陳列場をのぞいたことにしかなりません。

こうした個人コレクション開放型の小規模博物館が、地方地方にどんどん増え、これを活用利用する側の人々も、それをうまく学習素材として日常生活上に生かしてこそ、地域住民に支えられた博物館の発展が期待されるというものです。

- 開館時間 午前9.00～午後5.00 (年中無休)
- 観覧料 大人(高校生以上) 100円
小中学生 50円 団体割引あり

▼ (古陶器類が並んでいます)



昭和55～56年度 役員一覽

名誉会長 上松陽助 (岐阜県知事)
 会長 蒔田 浩 (岐阜市長)
 副会長 平田吉郎 (高山市長)
 " 郷 浩
 " 大橋桃之輔 (岐阜県博物館長)
 理事長 青木允夫 (内藤記念くすり博物館長)
 理事 浅見昭子 (浅見化石会館)
 石田豪澄
 上村 修
 大江 令 (中部山岳考古館)
 大橋宣嘉 (飛騨大鐘乳洞)
 小野木三郎 (岐阜県博物館)
 小栗克介 (美濃歌舞伎博物館)
 尾内広行 (高原郷土館)
 金子貞二 (明方村立博物館)
 日下部 尚 (日下部民芸館)
 熊沢輝雄 (岐阜県陶磁器陳列館)
 熊谷光男 (瑞浪市化石博物館)
 樹神 弘 (岩村町郷土館)
 高桑英一 (白川郷合掌村)
 竹村信弘 (岐阜市少年科学センター)
 谷口 勉 (高山屋台会館)
 土田吉左衛門 (飛騨集古館)
 中川 連
 中田 勲 (飛騨民俗村)
 名和秀雄 (名和昆虫博物館)
 松本五三 (郡上八幡民芸美術館)
 松本秀夫
 吉田正吉 (大垣城郷土博物館)
 若宮多門 (若宮修古館)
 監事 石川良宣
 藤田松太郎
 松田 充
 顧問 長倉三朗 (飛騨民俗村名誉村長)
 広瀬 鎮 (モンキーセンター学芸部長)
 松尾克美 (済美女子高等学校長)
 吉田幸平 (濃飛甲冑研究所長)

事務局 〒501-32 関市小屋名, 岐阜県博物館内
 事務局長 西村義郎 (総務課長)
 事務局員 村地昭義 (庶務係長)
 " 三井京子
 総務担当理事 松本秀夫

専門委員会

広報委員会 (機関誌)
 担当理事 小野木三郎
 委員 宮崎 惇
 " 古田恵子
 " 上村 修

学芸委員会 (セミナー)

担当理事 中川 連
 委員 亀山久雄
 " 早瀬雅啓
 " 山田美春
 " 田中 清

学芸技術員講習会実行委員会

担当理事 松本秀夫
 委員 名和秀雄
 上村 修
 小野木三郎

◇原稿募集◇

横のつながりを深め、県内の博物館界の情報広場の場として、県内ニュースを充実させるために、各館園でのニュース(催し物案内、収集資料紹介、教育事業、出版物等の案内、その他)を、葉書で結構ですので、どんどんお寄せ下さい。機関誌にかかわる連絡は、

〒501-32 関市小屋名, 岐阜県博物館
 学芸部 小野木学芸員まで
 TEL <05752> 8-3111~(内52)

昭和54年度 収 支 決 算 報 告

岐阜県博物館協会

収入総額 1,029,155 円
 支出総額 823,076 円
 差引残高 206,079 円

◆ 収入の部 ◆

(単位 円)

項 目	54 年度予算	決 算	増 減	備 考
前期くり越し	182,906	182,906	0	
会 費	250,000	261,000	+ 11,000	
補助金	540,000	540,000	0	
要覧頒布	28,000	42,000	+ 14,000	
雑収入	2,000	1,200	- 800	
利息	2,000	2,049	+ 49	
合 計	1,004,906	1,029,155	+ 24,249	

◆ 支出の部 ◆

項 目	54 年度予算	決 算	増 減	備 考
事務費	200,000	130,880	- 69,120	
通信連絡費	150,000	98,060	- 51,940	
会議費	10,000	10,000	0	
印刷費	20,000	15,000	- 5,000	
需要費	20,000	7,820	- 12,180	
セミナー費	198,000	217,800	+ 19,800	明細別紙
講師謝礼	60,000	30,000		※その他支出
会場費	30,000	30,800		72,000
印刷費	36,000	4,000		参加費収入
通信費	36,000	26,780		36,000
会議費				差引 36,000
アルイその他	※ 36,000	126,220		
茶菓				
三県交流研修費	100,000	64,106	- 35,894	
機関誌費	300,000	289,830	- 10,170	
印刷費	150,000	168,300	+ 18,300	
送料	80,000	70,270	- 9,730	
取材料費	50,000	51,260	+ 1,260	
会議費	20,000	0	- 20,000	
東海博総会費	25,300	23,000	- 2,300	
会費	10,000	10,000	0	
旅費	15,300	13,000	- 2,300	山梨日帰
日博協総会費	46,500	42,000	- 4,500	仙台2泊
総会費	31,000	17,000	- 14,000	
通信費	15,000	10,000	- 5,000	
会場費	5,000	0	- 5,000	
印刷費	5,000	7,000	+ 2,000	
茶菓料	6,000	0	- 6,000	
表彰費	5,000	1,040	- 3,960	
役員会費	50,000	29,450	- 20,550	
振替手数料	4,000	2,970	- 1,030	
慶弔交際費	15,000	5,000	- 10,000	
予備費	30,106	0	- 30,106	
次期くり越し	0	206,079	+ 206,079	
合 計	1,004,906	1,029,155	+ 24,249	

昭和55年度 収 支 予 算

岐阜県博物館協会

〈収入〉

項 目	55年度予算	54年度予算	増 減	備 考
前年度より繰越	206,079	182,906	+ 23,173	
会 費	300,000	250,000	+ 50,000	
補 助 金	540,000	540,000	0	県 440,000円 岐阜市 100,000円
要 覧 頒 布	28,000	28,000	0	1部560円×50部
雑 収 入	2,000	2,000	0	
利 息	2,000	2,000	0	
計	1,078,079	1,004,906	+ 73,173	

〈支出〉

項 目	55年度予算	54年度予算	増 減	備 考
(事 務 費)	230,000	200,000	+ 30,000	
通 信 連 絡 費	170,000	150,000	+ 20,000	
会 議 費	10,000	10,000	0	
印 刷 費	20,000	20,000	0	
需 要 費	30,000	20,000	+ 10,000	
(機 関 誌 費)	416,660	300,000	+ 116,660	機関誌発行
印 刷 費	240,000	150,000	+ 90,000	№50号～53号 (700部年4回)
印 送 料	90,000	80,000	+ 10,000	ポスター(1000枚)
取 材 費	83,660	50,000	+ 33,660	博物館要覧改訂版
会 議 費	3,000	20,000	- 17,000	出版準備
(セ ミ ナ ー 費)	168,000	198,000	- 30,000	年6回
講 師 謝 金	30,000	60,000	- 30,000	
会 場 費	30,000	30,000	0	
印 刷 費	18,000	36,000	- 18,000	
通 信 費	60,000	36,000	+ 24,000	
会 議 費	30,000	36,000	- 6,000	
(学 芸 技 術 員 講 習 会)	5,000	0	+ 5,000	
会 議 費	5,000	0	+ 5,000	
(郷 土 芸 能 取 材 調 査 費)	60,000	0	+ 60,000	
(三 県 交 流 研 修 費)	20,000	100,000	- 80,000	9月29,30日 (伊勢市) 2人
(東 海 博 総 会 費)	30,000	25,300	+ 4,700	6月26,27日 (横浜)
会 費	10,000	10,000	0	
旅 費	20,000	15,300	+ 4,700	
(日 博 協 全 国 大 会 費)	40,000	46,500	+ 6,500	全国博物館大会
旅 費	40,000	46,500	+ 6,500	(熊本2泊) 1人
(総 会 費)	25,000	31,000	- 6,000	
通 信 費	5,000	15,000	- 10,000	
会 場 費	6,000	5,000	+ 1,000	
印 刷 費	9,000	5,000	+ 4,000	
茶 菓 料	5,000	6,000	- 1,000	
(役 員 会 費)	45,000	50,000	- 5,000	
(表 彰 費)	15,000	5,000	+ 10,000	
(振 替 手 数 料)	4,000	4,000	0	
(慶 弔 交 際 費)	15,000	15,000	0	
(予 備 費)	4,419	30,106	- 25,687	
合 計	1,078,079	1,004,906	+ 73,173	

民俗資料の整理と調査カードづくり(四)

明方村立歴史民俗資料館館長 金子貞二

たわごと

★主に民俗資料の調査カードづくりについて、過去三回に亘って紙面を割いてくださり、かつ毎々、小野木先生の過分なお引立てにあずかりながら、いっこうにお役に立てませんでした。

今回は、更到的外れなたわごとを申しあげて責を免れさせていただこうと思います。

★うれしかったこと

何かの機会に唐箕のことを、当地のことばでトミと言いますと、トウミではないか、といった顔をされます。表示についてもそうです。

郡上ではこのものをトミと言ひ、このものでの作業をトミアウチと言ひますが、さりとて、これは話の中でのことであり、文字で表わされた例となると唐箕しかないので、トミという呼び方の裏づけにはなりません。

ところが、最近寄せられた文化元年製の唐箕には紀年銘があり、その中に〈此戸身代二歩七百文〉と見え、少なくともそのころも郡上郡小野村では、唐箕をトミと呼んでいたことがわかりました。

また、千石通しを当村ではケンドと言ひますが、郡上地方一般としてはカナドオシと呼んでいます。カナドオシと言うからには、金網の通しに違いないが、さて、金網を張ったものが江戸時代にもあったかどうか、このことも私にはわかりませんでした。

ところがまた、去年寄せられた千石通しの紀年銘によりますと、天保四年のこのものには、そのジョウゴの表に〈かなとし見〉とあります。

うれしかったですなあ。

★だめなこと

生産関係用具については、重文申請の段階でそれぞれ生産なり、飼育なりの過程で、ここでは、どういうものが使われたかを、脳髓をしぼり、故老の門を叩きして調べあげ、どうしてもそれが手にはいらぬ場合は作ってでもそろえたはずなのです。

それがまあ、どうでしょう。たとえば、紙緒

草履の緒の仕上げには欠かせないコクリ(桐・朴などで、筒を縦に二つ割りにしたような形のものを作り、四つ竹のように合わせて握り、それに緒をはさみながらこすって、紙緒のすべをよくする道具)馬の親知らずをかち抜くのにいるヨデン(余分)バヌキ、また、タヌキオセにシンワナ、これらのものが、次々と寄せられてきました。いやはや、まったくだめですなあ。

★きやっとしたこと

母家を建て直すということで、昨冬から春にかけて三百数十点もの資材を寄せられた家があります。その節、〈まんだトミがあるが、おぞいし、トミはまあいらまいな?〉という話が出た。入れ場がないでよわったなあ、という思いが先走って、いるとも、いらんとも、まことに歯切れのわるい生返事をして、その場はすました。

それから暫くして、役場の教育課へ勤めておられるその家の奥さんが、私の書いた〈博物館からのお願ひ〉という、印刷に回すための原稿を読まれて、〈家のトミにも、なんやら書いてあるがいるかな?〉と言われた。〈そりゃ、おくれ。おくれ。〉ということで、また数日たちました。

ある休館日のこと、出勤してみると、玄関外に唐箕が置いてあります。駆け寄ってみると、タイコに、なんと文化元年とあるではありませんか。きやっとしましたな。へたすると灰になってしまっていたかもしれんと思うと。

はいたり、洗ったりするうち、ふっと、軸や軸受けが直してなかったらなあと思いました。ところがです、次の瞬間、直さずに新しいのを買ってしまわれたとしたら、と気づき、ぞおっとしましたなあ。

『訂正』 №49、4頁前段、下から11行目、則しては即しての誤りでした。

≡ 文献紹介 ≡

「科学博物館への招待」ぜひどうぞ！

全国科学博物館協議会の編集になるもので、科学系博物館74館が紹介されています。見逃せない展示、利用のしかた、特色、所蔵資料、出版物などが写真・イラスト入りでまとめられている楽しいガイドブックで、巻末の科学系博物館一覧表、分野別検索表など、利用場側の立場での編集工夫がされています。自然・人文の別なく全ての博物館、そして学校、各家庭にぜひ備えてほしい一冊です。

四六判 206 ページ、カラー図版入り、東海大学出版会刊行 1,000 円。

≡ 事務局より ≡

昭和56年度より会費値上げ！

過日事務局より、本年度分の会費請求を発送しました。現行会費額により、至急納入下さいますようお願い致します。なお、昭和56年度分からは、下記のように会費値上げが、総会にて決定しましたのでお知らせしておきます。

	現 行	昭和56年度より
(1) 公立館園		
県立	8,000 円	10,000 円
市町村立	8,000 円	5,000 円
(2) 私立館園	2,500 円	8,000 円
(3) 個人会員	1,500 円	2,000 円
(4) 賛助会員	10,000 円以上	10,000 円以上

アンケート調査に協力下さい！

本誌とともに「岐阜県の博物館～要覧調査原稿用紙」をおとどけしました。岐博協では、博物館月間(11月)に、岐阜県内博物館所在絵地図を基調とした「博物館へどうぞ」のポスター

発行を計画しております。この調査原稿による各館園等からの回答を資料として作成します。

また昭和56年度には「岐阜県の博物館要覧」改訂二版として出版予定の原稿とします。

ご回答がない場合には、いずれの協会出版物にも掲載もれになることがありますので、お忙しい中を恐れ入りますが、ご回答・諸資料送付下さいますようお願い致します。

岐博協セミナーに参加を！

岐博協学芸委員会の企画・運営による博物館学セミナーが、本年度も岐阜市内、岐阜県博物館、その他東濃地区、郡上地区等県内各地で開催されます。開催の都度、参加案内がとどけられますので、毎回多数参加下さいますようお願い致します。

編集後記

◎事務局が、これまでの内藤記念くすり博物館から、岐阜県博物館に移りました。事務引継ぎその他の諸事情で、総会開催も遅れ、本誌発行もずれがありましたことを、先ずお詫びします。

◎49号以降の機関誌がとどいていないが…どうなってしまったのか……と催促やら心配やらの声のとどいています。待たれる機関誌づくりのために、マンネリ化したこれまでの誌面構成に対して、どんどんご意見ご批判をお寄せ下さい。

◎51号10月、52号12月、53号2月の発行予定です。日々の実践の中で思うこと、資料調査結果の報告、新しい展示品の紹介、その他どんな原稿でも結構ですので、気軽にどんどんお寄せ下さい。次号からは、ささやかな冊子でも、ピリッと味のある内容にと意気込んでいます。(S.O)